

# Cichoń's maximum の証明

後藤 達哉

2022 年 8 月 21 日

## 目次

1	イントロダクション	1
1.1	Cohen, ランダム, Hechler, アメーバ, eventually different 強制法	3
1.2	goodness	3

## 1 イントロダクション

実数全体の集合  $\mathbb{R}$  を Lebesgue 測度 0 集合たちで覆うには、それらが最低何個必要かという問いを考える。Lebesgue 測度 0 集合の可算和は Lebesgue 測度 0 だから可算個では足りない。一方、 $\bigcup_{r \in \mathbb{R}} \{r\} = \mathbb{R}$  だから連続体濃度個あれば十分である。これで非可算かつ連続体濃度以下とわかるわけだが、ここで問いを終えてしまうのはもったいない。連続体濃度の下に非可算基数があることもありえることが分かっているからだ。そこで問の答えを

$$\text{cov}(\mathcal{N}) = \min\{|\mathcal{A}| : \mathcal{A} \text{ はルベーグ測度 0 集合の族で } \bigcup \mathcal{A} = \mathbb{R}\}$$

とおいて、これがいろんな集合論のモデルでどうなっているのか調べよう。また、他の似たような問いの答えを文字でおいてそれらの間の関係を調べよう：ZFC の範囲内で大小関係がつくのか、等しいのか、ZFC で等しいことを証明できないなら実際にどんなモデルで破れているのか。これが**基数不変量**の研究である。

基数不変量という言葉に厳密な定義はないが、「実数の構造によって定義される基数」のことである。

いくつかの基数不変量を定義しよう。

$2^\omega$  上のイデアル  $\mathcal{I}$  に対して

- $\text{add}(\mathcal{I}) = \min\{|\mathcal{J}| : \mathcal{J} \subseteq \mathcal{I}, \bigcup \mathcal{J} \notin \mathcal{I}\}$
- $\text{cov}(\mathcal{I}) = \min\{|\mathcal{J}| : \mathcal{J} \subseteq \mathcal{I}, \bigcup \mathcal{J} = 2^\omega\}$
- $\text{non}(\mathcal{I}) = \min\{|A| : A \subseteq 2^\omega, A \notin \mathcal{I}\}$
- $\text{cof}(\mathcal{I}) = \min\{|\mathcal{J}| : \mathcal{J} \subseteq \mathcal{I}, (\forall A \in \mathcal{I})(\exists B \in \mathcal{J})(A \subseteq B)\}$

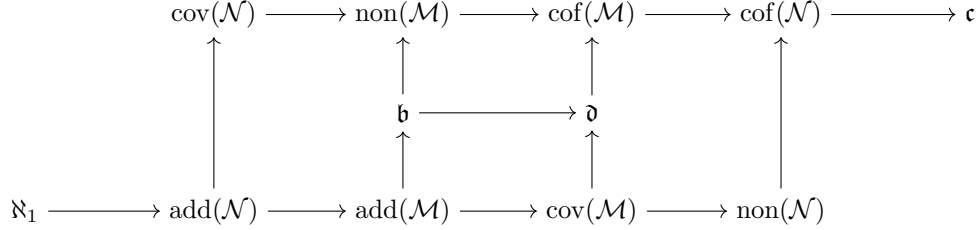
とおく。これらにルベーグ測度 0 集合のイデアル  $\mathcal{N}$ , 瘦せ集合のイデアル  $\mathcal{M}$  を代入したものが考察の対象である。

また,

- $\mathfrak{d} = \min\{|F| : F \subseteq \omega^\omega, (\forall f \in \omega^\omega)(\exists g \in F)(f \leq^* g)\}$ .
- $\mathfrak{b} = \min\{|F| : F \subseteq \omega^\omega, \neg(\exists f \in \omega^\omega)(\forall g \in F)(g \leq^* f)\}$ .

という基数不変量も考えられる． $\mathfrak{d}$  は dominating number,  $\mathfrak{b}$  は bounding number と呼ばれる．

以上の 10 個の基数不変量の ZFC で示せる大小関係については以下の図式が知られていて, Cichoń の図式と呼ばれる．



ここで矢印  $A \rightarrow B$  は  $A \leq B$  を ZFC で証明できることを意味する．また  $\text{add}(\mathcal{M}) = \min\{\text{cov}(\mathcal{M}), \mathfrak{b}\}$  かつ  $\text{cof}(\mathcal{M}) = \max\{\text{non}(\mathcal{M}), \mathfrak{d}\}$  が ZFC で証明できる．

Cichoń の図式に表示されている基数不変量以外にも Blass の図式と呼ばれる図式の基数不変量： $\mathfrak{m}, \mathfrak{p}, \mathfrak{h}, \mathfrak{g}, \mathfrak{s}, \mathfrak{e}, \mathfrak{r}, \mathfrak{a}, \mathfrak{u}, \mathfrak{i}$  などもある．しかし，本稿ではこれらには焦点を当てない．

表 1 Cichoń の図式の歴史

年	人物	出来事
1875 年	du Bois-Reymond	$\aleph_0 < \mathfrak{b}$ の証明
1891 年	Cantor	$\aleph_0 < \mathfrak{c}$ の証明
1938 年	Rothberger	$\text{cov}(\mathcal{M}) \leq \text{non}(\mathcal{N})$ と $\text{cov}(\mathcal{N}) \leq \text{non}(\mathcal{M})$ の証明
1963 年	Cohen	連続体仮説の独立性
1970 年	Martin–Solovay	Martin の公理およびその帰結の $\text{add}(\mathcal{N}) = \mathfrak{c} > \aleph_1$ の証明
1977 年	Truss	$\min\{\text{cov}(\mathcal{M}), \mathfrak{b}\} \leq \text{add}(\mathcal{M})$ の証明
1981 年	Miller	$\text{add}(\mathcal{M}) \leq \min\{\text{cov}(\mathcal{M}), \mathfrak{b}\}$ の証明およびこの時点で知られていたモデルでの Cichoń の図式の中の基数不変量の値の決定, Kunen–Miller の表 (5x5 マス)
1984 年	Miller	$\text{add}(\mathcal{N}) \leq \mathfrak{b}$ の証明; Kunen–Miller の表 (6x6 マス)
1984 年	Bartoszyński	$\text{add}(\mathcal{N}) \leq \text{add}(\mathcal{M})$ の証明
1984 年	Fremlin	$\text{cof}(\mathcal{M}) = \max\{\text{non}(\mathcal{M}), \mathfrak{d}\}$ の証明; Cichoń’s diagram 登場
1985 年	Raisonnier–Stern	$\text{cof}(\mathcal{M}) \leq \text{cof}(\mathcal{N})$ の証明
1989 年	Bartoszyński–Judah–Shelah	$\text{PT}_{f,g}$ 強制法の開発および連続体濃度が $\aleph_2$ のときの Cichoń の図式の分離すべて完成
2019 年	Goldstern–Kellner–Shelah	巨大基数を仮定した Cichoń’s maximum の証明
2021 年	Goldstern–Kellner–Mejía–Shelah	巨大基数を仮定しない Cichoń’s maximum の証明

表 1 に Cichoń の図式の歴史をまとめた.

連続体仮説の否定の無矛盾性以前に Rothberger の結果があるのがすごいが, この結果は「Luzin 集合と Sierpinski 集合の両方が存在するならば連続体仮説が成り立つ」という定理の補題として証明された. Cantor の  $\aleph_0 < \mathfrak{c}$  以前に du Bois-Reymond が  $\aleph_0 < \mathfrak{b}$  を示していたことも驚くべきところであろう.

Kunen-Miller の表というのは次のような表である. [Mil81] から抜粋した. Cichoń の図式ができる前はこのような表でどの組合せが可能か, 可能ならどのモデルかを表していた.

		category					
		Add	T	F	F	F	F
measure		Baire	T	T	F	T	F
Add	Baire	Unif	T	T	T	F	F
T	T	T	MA [MS]	?	?		
F	T	T	See Conjecture §9 (2)	Iterated random reals §4	Infinitely equal and random reals §7		
F	F	T	Dominating reals §5	Eventually different reals §5	Mathias reals §6	Cohen reals [K1]	Infinitely equal reals §7
F	T	F			Random reals [K1]		
F	F	F			See conjecture §9 (3)		Silver or Sack's reals §7

図 1 Kunen-Miller の表

表題にもなっている Cichoń's maximum であるが, これは Cichoń の図式において (他の基数不変量の値に束縛されている  $\text{add}(\mathcal{M}), \text{cof}(\mathcal{M})$  を除いて) すべての基数不変量の値を同時に別々の値にするモデルである. そのようなモデルの構成法を本稿では見ていく.

## 1.1 Cohen, ランダム, Hechler, アメーバ, eventually different 強制法

## 1.2 goodness

## 参考文献

[Mil81] Arnold W. Miller. "Some properties of measure and category". *Transactions of the American Mathematical Society* 266 (1981), pp. 93–114.